

西側の南海高架を隔てた花園北 1 丁目においては、図 5 のように少々異なる動きを見せる。相変わらず男性が多い地域であるが、1995 年や 2000 年では、若年を一部含む中年の単身居住が結構なボリュームを有しつつ、50 歳代を最大とする稼働年齢層の暫住・暫居するまちであった。ところが 2005 年から単身中若年が急激に減少し、おそらく生活保護利用者などの高齢者が一挙に増え、人口も増加気味となった。近年は、少ないとはいえ中若年単身の暫住を抱えつつ、高齢単身の独居が最大勢力となっていることがわかる。

花園北 1 丁目

注：人口ピラミッドの横幅最大値は300人である

	外国人率 区内順位 (84)	外国人 人数順位 (84)	総人口	外国人人数			外国人人口率		
				総計	男外国人/男人数	女外国人/女人数	総計	男	女
花園北 1 丁目（平成22年）	42	16	1984	91	56/1478	35/506	4.6%	2.8%	1.8%
花園北 1 丁目（平成27年）	24	8	1928	116	65/1485	51/443	6.0%	3.4%	2.6%

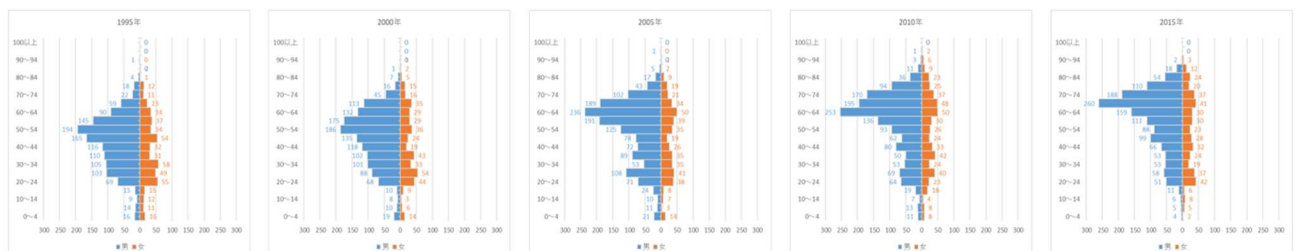
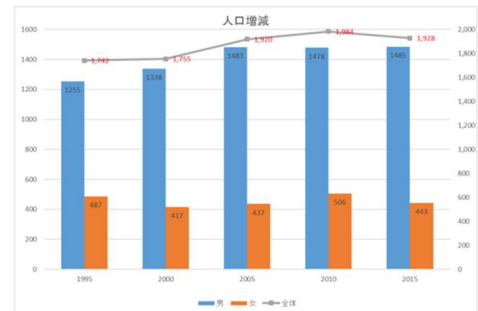


図 5 花園北 1 丁目の人口動態

この状況を、住まい方の変遷の 2017 年に行った現地調査にて明らかにしたものが、図 6 である。これは建物別に現在と過去の住まい方の変遷がわかる 48 の共同住宅を対象にした。現在は複数の用途を有する建物ができているため、66 の住まい方が見られたことを示している。建築年も 1980 年代以降 10 年刻みにみて、どの年代も結構活発に見られる。高齢単身の独居が急増し、続いて単身のワンルームを中心とする暫住が増えている。宿泊も民泊などの増加があったが、一方で暫居、滞在は減少となった。後の飯場の動向の議論からして、飯場・社員寮で見られる暫居の資源が、あいりん地域では減少気味となっていることが明らかとなった。いずれにしても、定住層をメインとしない、暫住、暫居にフレキシブルに対応する一般にはほとんど見られない特別なハウジングを集積させた特徴あるまちの推移となっている。

参考までに、JR 線をはさんで北側の浪速区の区境に接する恵美須西 3 丁目と大国 3 丁目の動きを見てみる。図 7 の恵美須西 3 丁目では、星野リゾートの進出が予定されている。現時点においては人口が減少気味にあるが、ここは簡易宿所よりやや広いしかし宿所ではない、保証金、保証人不要の日払いマンションが集中する町丁である。単身の若中年にそこそこの人口を有しつつ、単身の 50 歳代に分厚い居住をみる 1990 年代から、2005 年以降になると、60 歳代以上の居住が増加し、かなりの部分が生活保護利用層の増加と見られる。その分それ以外の若年層が減少し、その傾向が続いている。外国人居住もボリューム的に多く、独居、暫住の単身居住のまちであることには変わりない。

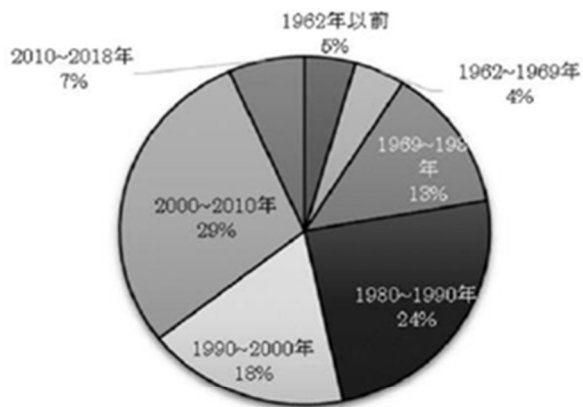


図 3-4-1 建築年内訳

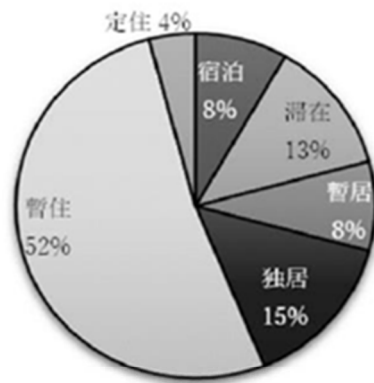


図 3-4-2 当初の住まい方
(住まい方の合計数=48)

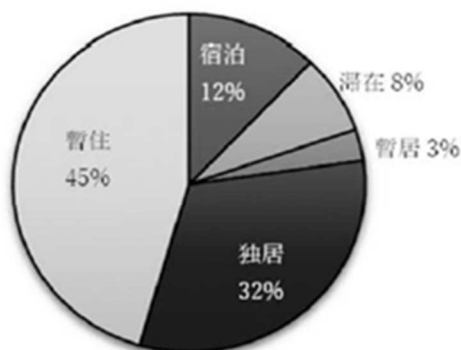


図 3-4-3 現在の住まい方
(住まい方の合計数 n=66)

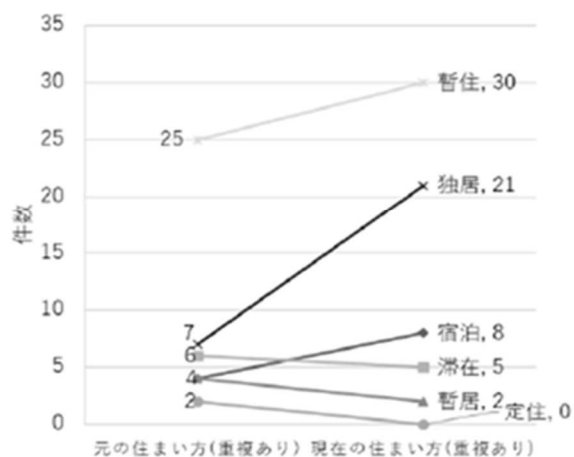


図 3-4-4 住まい方の変化

図 6 花園北 1 丁目における住まい方の分布とその変化 (2017 年調査)

恵美須西 3 丁目

注: 人口ピラミッドの横幅最大値3人である

	外国人率 区内順位	外国人 人数順位	総人口	外国人人数		外国人人口率		
				総計	男/外国人/男人数 女/外国人/女人数	総計	男	女
2010年	26/62	2	3155	190	101/2058 89/1097	6.0%	3.2%	2.8%
2015年	24/62	3	3016	260	144/1984 116/1032	8.6%	4.8%	3.8%

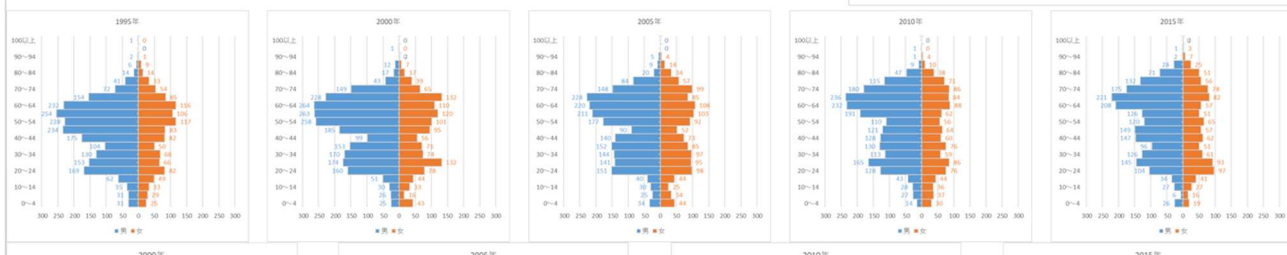


図 7 恵美須西 3 丁目の人口動態

一方西側の JR 今宮駅に面する大国 3 丁目では、図 8 のように若年の単身居住がもともと多く、中でもかなりの部分は外国人が占め、かつ男性が多いとはいえ女性にも同様の若年層への集中が見られる町丁となり、近年のその増加率は大変高いといえる。また高年齢層も単身男性の増加が見られ、生活保護利用者も含まれる状況にある。特養の進出で、80-90 歳の高齢女性の居住も見られる。いずれにしても流動的な若年層の暫住あるいは暫居、そして民泊などの滞在型の卓越したまちの様相をさらに強めつつある状況である。鉄道ひとつ隔てて、西成区とはかなり様相の異なる人口増加のフェーズを有している。外国人居住も多いことから、日本人と外国人がともに住み、労働市場を支えるまちとなる予兆とみるべきであろうか？ あいりん地域の今後のあり方の参考事例エリアとなるかもしれない。

大国 3 丁目

注：人口ピラミッドの横幅最大値は300人である

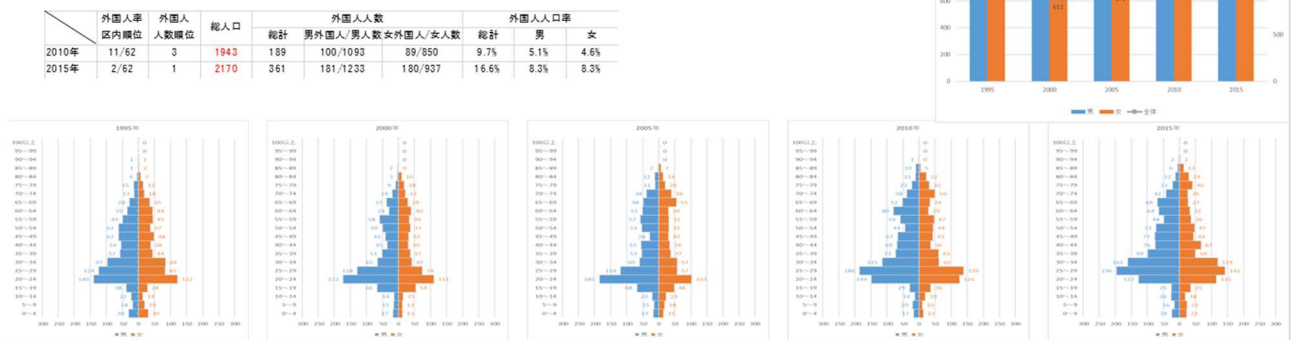


図 8 大国 3 丁目の人口動態

この節の最後では、あいりん地域全体の人口動態をみることにする。2011 年時点での推計にもとづいているが、2015 年推計値と実際のあいりん地域の 2015 年の人口との差がほとんどなく、推計がよくできていたため、この推計を利用している。図 9 では、あいりん地域ではピーク時の 1960 年の 3 万人を超えた人口が、2005 年までは何とか 2 万人台半ばを維持してきた。しかしその後は減少の一途をたどり、2030 年には 1 万人を切り、ピーク時の 3 分の 1 の人口に減ることが予想されている。

労働者人口の推計はなかなか困難なのでここでは取り上げないが、生活保護利用者の動向は推計可能である。あいりん地域の利用者のピークが 2010 年の 9500 人であり、2018 年時点では、8100 人ほどとなっている。人口推計では、2010 年に 65 歳以上人口が 8000 人ほどいたが、2030 年には 4500 人ほどとなる。利用者がこの 65 歳以上人口の 1.2 倍であったので、この倍率を、2030 年にそのまま当てはめると生活保護人口は 5400 人ほどとなる。したがって福祉アパートの需要は、2018 年現在からすると、およそ 3 分の 2 になると推計される。また周辺地域への転出も、上述の周辺町丁の人口動態からみて、一定程度あると見られるので、3 分の 2 という減少幅はさらに増大する可能性もある。

生活保護利用者の減少という現実に対して、簡易宿所や福祉アパートの選別が利用者の間で進行しているといわれている。空室率などもハウジングやサービスの状況に応じて大きな差が生

じ、経営の維持できるところと、転売や建ち枯れという二方向に分かれてゆくことが予測される。経営の維持できるところを中心に、新しい日常生活支援施設の認定を得る必要性があり。そのために無料低額宿泊所を改めた社会福祉住居施設への届出が必要なる。それとともに、転売や遊休物件をどう蘇生させ、新たな需要を生み出すか、福祉、就労、ハウジングをセットにしたサービスハブ構想を、これまでになかった労働スタイルを意識しつつ練っていかねばならないであろう。

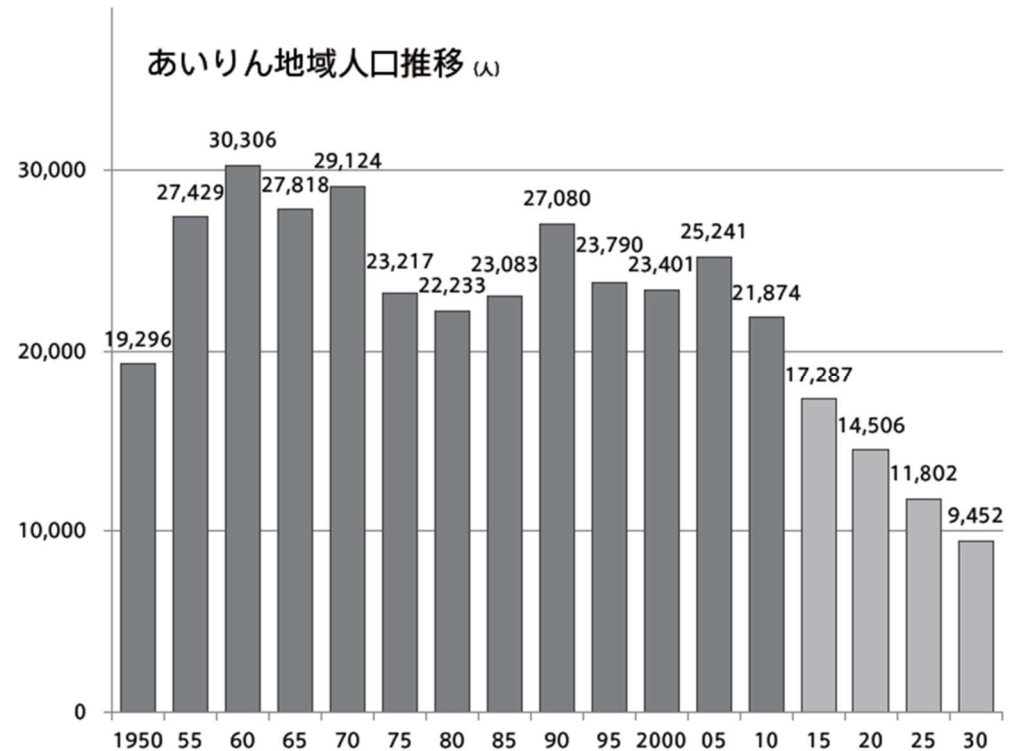


図9 あいりん地域の人口推移（大阪市立大学都市研究プラザ（2012）『あいりん地域の現状と今後—あいりん施策のあり方検討報告書—』より）

あいりん地域全体	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人数（不詳除く）	24212	19847	17287	14506	11802	9452	7573
男性比	85%	85%	85%	85%	85%	85%	86%
高齢化率	31%	40%	48%	52%	50%	48%	48%

あいりん地域全体	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
15歳未満	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
15歳～34歳	9%	8%	7%	6%	5%	5%	5%
35歳～49歳	15%	14%	14%	15%	15%	15%	14%
50歳～64歳	44%	37%	29%	27%	28%	30%	33%
65歳～74歳	24%	29%	32%	31%	25%	22%	24%
75歳以上	7%	11%	16%	21%	26%	26%	24%
高齢化率	31%	40%	48%	52%	50%	48%	48%

図10 あいりん地域 年齢構成別 人口推移と年齢別シェアの推移 推計 2015-2030 年
(出典:同上)